

8-7 施工管理現場における悪天候への対応

1. 立場と仕事

建設コンサルタント会社に入社後は橋梁設計を行い、4年目に施工管理業務に従事するため社外に出向した。

施工管理業務では担当技術者として従事し、発注者を補助・支援しながら、新規に建設されている高速道路の複数の橋梁工事を管理していた。

2. 遭遇した事態

供用目標に近づく中、複数の工事が同時並行で進んでいたが、多くの関係機関（自治体、河川管理者、鉄道管理者等）との協議や地元との調整が計画どおりに進まず、工事工程が遅れ気味となり、供用時期の遅延が懸念される厳しい状況にあった。

複数の工事で使用している生コンプラントからの供給能力を考慮すると、各工事での出荷日（打設日）を工事単独の都合のみで設定することができず、工程のずれや天候による中止などによる急な変更が対応できない状況にあった。

管理をしていた橋梁工事で、床版コンクリートを打設する予定となっていたが、翌日の天気予報の降雨確率が80%と高く、品質確保の観点から中止せざるを得ないと判断したが、中止すれば、施工者が次に生コンを確保できるまでに日が空き、工事工程に大きく影響することも気になっていた。

翌日となり、降雨確立は高いものの、曇ってはいたが雨は降っておらず、施工者から、工程も遅れており、是非施工させて欲しいとの申し出があった。

3. 対応内容とその結果

厳しい工程の中、工程をこれ以上遅延させたくない思いの一方で、品質確保を図るという施工管理業務者の責務もあり、コンクリートの打設を許可するか否かを判断する必要が生じた。

施工業者から、雨により品質が満足しない場合は、取壊し再施工する覚悟であることを伝えられ、施工者の思いを発注者へ伝え、了解をとることとした。

コンクリートの打設途中で降雨となることも想定されたため、緊急対応についても並行して準備を行い、発注者の了解を得ることができた。

予定範囲の7割程度の施工が完了した時点で、雨が降り始めた。

すぐに降雨対策を実施すること、キリの良いブロックで施工を取りやめることを、施工業者に指示した。施工完了箇所については、降雨対策を既に行っていたこともあり、大きな混乱もなく品質を確保することができた。

この経験により、臨機応変な決断力、緊急時の対応力など重要性について認識できたと考える。